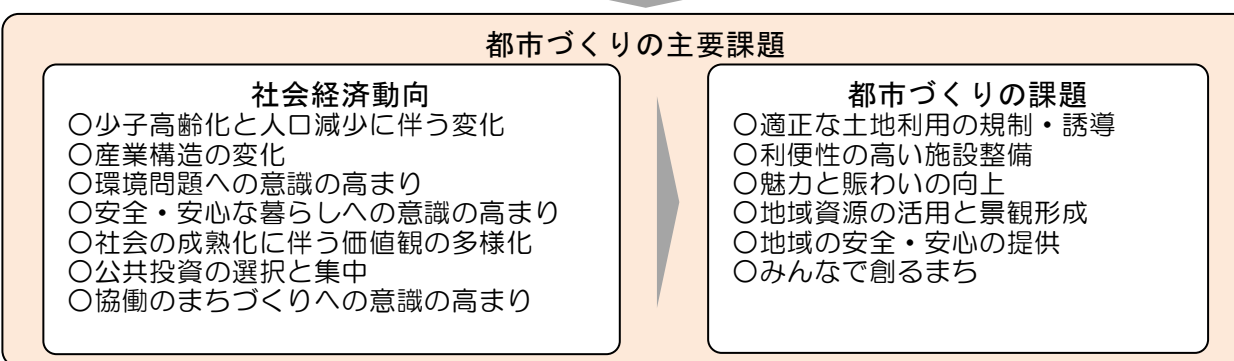
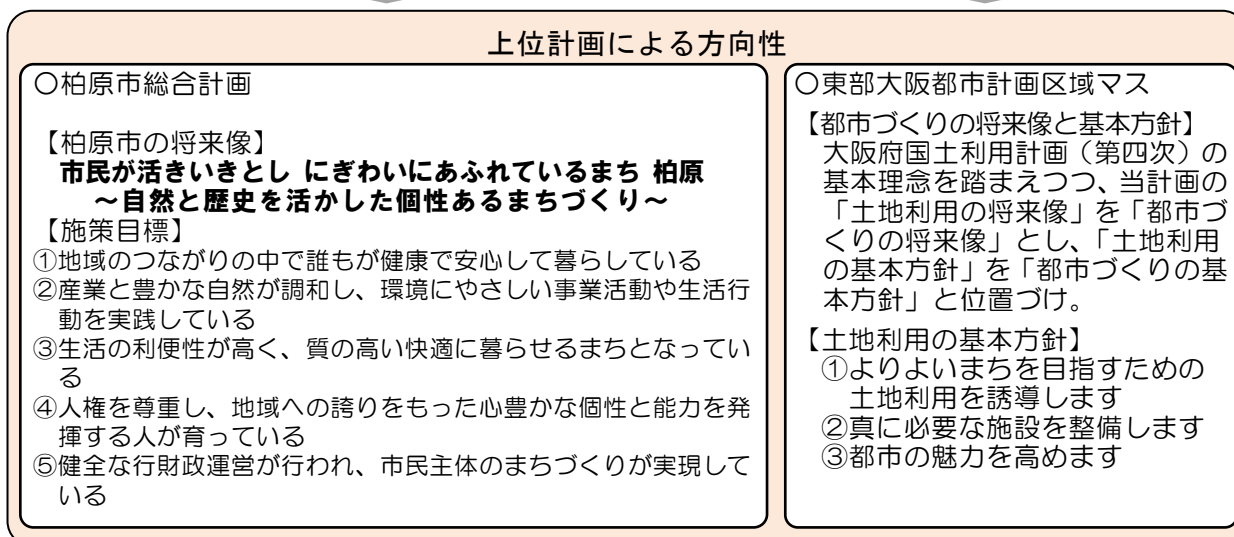
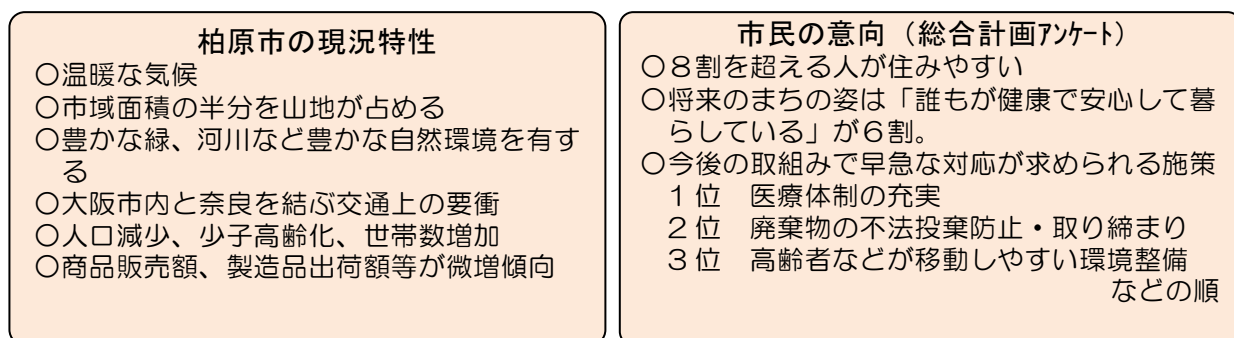


第3章 目指すべき都市像

1. 都市づくりの理念

柏原市の現況と課題を踏まえ、都市づくりを進めていくうえでの考え方として基本理念を示すとともに、目指すべき姿として都市づくりのテーマを次のように設定します。

■都市づくりのテーマの検討フロー



都市づくりのテーマ

市民が生きいきとし にぎわいにあふれているまち 柏原
～自然と歴史を活かした個性あるまちづくり～

2. 将来目標

人口は年々減少していますが、今後の経済を発展させていくためには、積極的な人口増に取り組む必要があります。

平成 22 年度に策定された柏原市総合計画においては、本市の魅力である緑豊かな自然環境を大切にしながら、利便性の高い都市基盤を整備し、質の高い魅力ある生活環境を創出するとともに、特に子育て支援策の充実、地域産業の活性化など、若者の定住化促進に重点を置いた施策の充実等に取り組むことにより、現在の人口を上回る将来の目標人口を 80,000 人と設定しています。

このため、本計画においては、上位計画の目標人口を踏襲し、平成 32 年、目標人口 80,000 人を目指します。

目標人口 平成 32 年 約 80,000 人

3. 都市づくりの基本目標

都市づくりの主要課題と都市づくりのテーマを踏まえ、基本目標を次のように定めます。

都市づくりのテーマ

**市民が生きいきとし にぎわいにあふれているまち 柏原
～自然と歴史を活かした個性あるまちづくり～**

必要な都市機能がコンパクトにまとまった利便性が高い良好なまちづくり

- ・無秩序な市街地の拡大を抑制し、計画的かつ効果的なインフラの整備を行うため、災害に強い都市計画を進め、高齢化社会にも対応したまちづくりの実現を目指します。
- ・既存商店街の活性化及び都市機能の充実により、利便性の高い中心市街地を再生し、市民が買物や交流など身近な地域で日常の活動を行うことができるまちを目指します。

快適な衛生環境の確保

- ・日常生活に欠くことのできない水道水を、平時・非常時に関わらず、いつでも利用できるよう、水道施設の適切な改修及び更新を進めるとともに、経営基盤の強化、水質の維持及び向上や水源の確保により、安全で安心な水道水が安定供給されているまちを目指します。
- ・計画的な下水道の整備により、生活排水等が適切に処理された、快適な衛生環境が確保されているまちを目指します。

利便性、安全性の高い交通基盤の整備及び誰もが快適に移動できる環境の充実

- ・誰もが安心して歩ける生活道路の整備や歩行者空間のバリアフリー化をさらに進めるとともに、府県境を超えて快適に移動できる広域交通ネットワークの充実や公共交通機関の利便性向上に努め、安全性の高い交通基盤が整備されているまちを目指します。
- ・市民の交通安全意識が高まり交通マナーが向上し、違法駐車や放置自転車がなく、交通事故が減少しているまちを目指します。

うるおいと安らぎを与える景観や身近な緑の創出

- ・市民の憩いの場となる公園、緑地等が、市民との協働により整備され、緑豊かなまちづくりが進められているとともに、歴史的なまちなみの保全や周辺環境と調和した美しい都市景観が形成され、日常生活の中でうるおいと安らぎが感じられるまちを目指します。

市民主体のまちづくり

- ・市民と行政がお互いの責任と役割を自覚し、それぞれの立場を尊重しながら、ともに考え、協力し合う、市民参加と市民協働のまちづくりの実現を目指します。

4. 将来都市構造

(1)都市構造設定の方針

柏原市においては、量の観点からの市街地整備は一定の水準を満たしているが、今後は質の観点からの市街地整備が求められています。

特に、いわゆる住宅都市では単に居住空間のみの環境向上だけでなく、都市全体としての魅力や個性を創造していくことが課題となっており、交通機能の充実に伴った都市間競争は一層激しくなっていくと考えられます。

このようなことから都市の骨格構成を表現する都市構造の設定は、その都市の特徴や個性を表現する上で重要なことです。

柏原市では、以下の方針に沿って将来都市構造を設定します。

都市核の位置づけを明確にし、ネットワークの強化を図る

柏原市は大和川によって柏原・国分地区に分けられており、JR柏原駅及び近鉄河内国分駅を中心とした周辺が商業・業務機能の集積する核となっています。現在、この核は地区の中心的な性格を持っており、今後もこの状況は変わらないと考えられます。

しかし、本市における柏原・国分地区及びそれら地区の中心となる核についての位置づけや役割については明確でなく、それぞれが独立して存在しているため、市全体として有効な都市機能の配置ではありません。そのため、都市のネットワークの軸となる両核の間では、それらを結ぶ空間の結節力が弱く、市全体の核機能のネットワークが有効に働いていないと言えます。

今後は、両核の中心と言える市役所付近において、行政・文化の拠点としての機能性を高め、都市軸を結ぶ結節機能を強化させて市全体のネットワークの強化を図ることとします。

緑と水の歴史を生かした都市構造とする

柏原市は古来、大和川及び平野川の舟運と、奈良街道などの陸上交通網によって都市の骨格が形成され、これらが人々の生活と密接にかかわってきました。

現在では河川交通はなくなり、陸上交通も街道から鉄道・自動車にとって代えられるなど、人々の生活と河川、街道の関わりが少なくなっています。

しかし、河川は生活にうるおいを与える意味で重要な自然空間であり、旧街道についても、ヒューマンスケールの交流が生まれる貴重な歴史空間です。

従って都市構造設定の際には以上の点を考慮し、河川空間と街道空間にネットワークの軸としての機能を与え、柏原市の地域性が積極的に活かせる都

市構造とします。

周囲をとり囲む山の辺の緑についても保全を図り、古来より山の辺に成立されてきた旧集落と共に、良好な住宅地と山の緑によって市街地をとり囲めるような都市構造とします。

また、旧奈良街道、平野川（了意川）沿いの今町・古町・上市地区の商家の歴史的建物やリバーフロントのまちなみ、ぶどう畑の中に立派な木造民家が建ち並び、太平寺地区の伝統家屋と農空間のまちなみの保全・修景を推進します。

(2) 柏原市における都市核の位置づけ

柏原市においては都市核を以下の3箇所に配置し、それぞれにおいて都市機能の集積を図るとともに、役割分担を行うことによって核機能の相互補完体制の確立とバランスのある市街地の発展を促します。

① JR 柏原駅周辺

JR 柏原駅周辺は旧市街地であり、すでに一定の商業・業務機能、文化的機能等を有し、都市核としての役割を担っていますが、近年ではその活力が低下し、その利便性や既存の資源が活かせていない状態です。

従って、JR 柏原駅周辺では地区に活力を与えるために駅前において拠点的な商業・業務機能の創出を促すと共に、その周辺においては既存の資源を活かして相互のネットワークを強化し、市民生活の中心となり得るような多機能な空間創りを目指します。

具体的には、駅前に拠点的な商業施設の配置を誘導すると共に、これに結節する既存商店街についても活性化を図り、近隣商業地と大規模店舗の共存を図ります。

また、既存商店街と交差する長瀬川、奈良街道との一体的なネットワークも図り、商業だけでなく都市生活が楽しめるようなゾーンとして、面的な環境整備等を目指します。ネットワーク上にはこれらの施設に加え、文化・コミュニティ施設の立地も促進し、今後 JR 柏原駅周辺が地域文化を創造できるまちとして発展していくことも促します。

そして、これらの機能が有効に働くように都市基盤施設の整備も促していきます。

② 近鉄河内国分駅周辺

近鉄河内国分駅周辺は今後さらに発展が見込まれる国分地域の中心として位置づけられ、JR 柏原駅周辺と共に都市核の役割を担っています。

従って、今後とも近鉄河内国分駅周辺は国分地域住民の生活拠点として位置づけ、発展していく新しいまちに対応した拠点づくりを進め、JR柏原駅周辺の都市核との役割分担を図っていきます。

具体的には、駅前に限って拠点的に商業・業務施設の立地を誘導すると共に、大阪教育大学等の存在を考慮して、若い世代の需要や要望に対応することのできる文化・コミュニティ施設等の導入を図り、新たな文化発信拠点創りを目指します。

③ 市役所周辺

上記の2都市核の間に位置し、市役所や市民文化会館等の本市の中核施設が立地している安堂付近では、老朽化などに対処するための総合庁舎の整備を検討するなど、これまで以上に人々への求心力のある地区として機能充実を図ろうとしています。

一方、柏原と国分の2つの都市核が存在していることが個性ある地域発展を促す反面、市全体としての中心が不明確になりがちであったことを考えると、現市役所周辺がそれらを相互に結びつける役割を強化していくことによって、そのマイナス面を補完し相互の都市核の機能強化を進めていくことが今後の本市の魅力ある都市づくりにとって不可欠なことと言えます。

そこで、この市役所周辺を都市核として位置づけ、市全体の中心的な役割の強化を図るとともに、柏原駅周辺及び河内国分駅周辺との密接なネットワークにより相互の機能向上を目指します。

(3) 軸構成

① 都市軸

市内及び周辺都市との商業・業務・生活の流れの中心となる軸を都市軸と設定し、この軸を骨格にして各ゾーンを結びつけます。

都市軸は、JR柏原駅周辺と市役所周辺及び近鉄河内国分駅周辺の「都市核」を結ぶ南北方向に延びており、そのうち3つの核については、結びつきを強化するために現在の鉄道・道路による結節の他に緑水軸と旧街道の活用によって人と人との結びつきを強化します。

② 生活軸

市内及び周辺都市と結びつく軸のうち、主に市内の日常生活と深く関係する軸を生活軸として設定し、この軸沿いに関して、特に良好な住環境創りを主眼においたまちづくりを進めます。生活軸は、車の利便性を第1に考えるのではなく、歩行者の視点も考慮した歩行者空間づくりを目指し、その位置

は日常の歩行者動線を考慮します。

設定した部分は旧国道 170 号（東高野街道）沿いと、JR 関西本線と奈良街道が並走する大和川沿いと河内国分駅から石川までの玉手山丘陵であり、街道景観を積極的に活かしたり、緑の帯や緑水軸との連続性を保つことによって、生活にうるおいを与えることを目指します。

③ 緑水軸

大和川と石川を緑水軸と設定し、市内を区分する機能に加えて、市内各地を結んで、うるおいを与える緑のネットワークの骨格として位置づけます。

緑水軸についてはその自然的環境の保全とともに、レクリエーションの面での活用を図ります。

④ 緑の帯

市街地をとり囲む山地のうち、風致の面で特に重要な市街地に面する立面的な緑を緑の帯として設定し、保全します。

■ 柏原市における都市核の位置づけ

